鶴岡	]工業高等	専門	学校		開講年度	平成28年度 (2	2016年度)	授	業科目	]本学特	論	
科目基礎	<b>性情報</b>											
科目番号		00	030				科目区分		一般 / 選択			
授業形態		授	業				単位の種別と単位	立数	学修単位: 2	)		
開設学科		専	攻科一	般科目	・共通専門	—————————————————————————————————————	対象学年		1			
開設期		後	期				週時間数 2					
教科書/教	材						1, -					
担当教員		Пш	田充昭	7								
	<b>=</b>		т 70-1									
		<del>7</del>	. P +. +m	1+12.1	夕田中か市	一	<i>に</i> たお窓できる					
		教の人	、同を批	握し、	合歴史的事	象の間にある因果関	係を方祭できる。					
レーブリ	ノツク						1					
					/ベルの目安	標準的な到達レベルの目安			未到達レベルの目安			
基礎的な歴史事象の認識する力				日認情	勢の概要を説	ける歴史事象を深く 当時の政治・社会 日本古代における 説識している。			。歴史事象を深く 左記が		·できない。	
歴史事象間の因果関係の考察する力				日よ出、象その	本古代の政治 本古代の政治 うな事件引き したか、また 以後にどのら を起こす原因 の経緯脈絡 る。	日本古代の政治・社会情勢を特徴 づけている要因を説明することが 左記か できる。			左記がで	<sup>できない。</sup>		
 学科の至	到達目標項	百日人	トの関				•					
	り建立(赤ち) り視野と技術			-	ナス. R-1							
		131 ET 1111	ユロオ	1 JV	, ⊘° ∩-T							
教育方法	5守	1	· - ·	11.552.1	<u> </u>							
既要の迷り	<u> </u>		ミナー			+ hu	, ilis +v 88 — — — — — — — — — — — — — — — — — —		. > _ > + /-	· _		
受業の進む	か方・方法					ーを決めて発表を行						
<b>点意</b> 主		닏	ボータ こと。	一は第	きまに際して	レジュメを作成する	こと。レボーター	以外の含	<b>芝講者も</b> 積極	的にティ	スカッション	に参加する
<b>声前</b>	5公学33			70								
	F後学習、 -	1.	ノイス	<i>.)</i> ^• <u>`</u>	_							
受業計画	<u> </u>											
		週		授業内	内容			週ごと	の到達目標			
		1週		日本己	5代の外交 I							
		2週		日本古	日本古代の外交Ⅱ							
	ı	3週		日本古代の外交Ⅲ								
	L	4週		日本律令制度 I								
	3rdQ	5週			日本律令制度Ⅱ							
		6调			日本律令制度Ⅲ							
					日本古代の社会問題Ⅰ							
<b></b>			8週		日本古代の社会問題Ⅱ							
			9週		日本古代の社会問題Ⅲ							
			10週		日本古代の環境 [							
			/-		日本古代の環境Ⅱ							
	4thQ	<b>12</b> 边	12週		日本古代の環境Ⅲ							
	1319	13ปั	13週		日本古代の思想 I							
		14	14週		∃本古代の思想Ⅱ							
		15i	15週		日本古代の思想Ⅲ							
	<u> </u>	16ปั	16週									
モデルコ	コアカリ=	トユョ	ラムの	学習	内容と到達	<b></b>						
<u></u> 分類	-		分野		学習内容	学習内容の到達目	票				到達レベル	授業週
基礎的能力					国語	論理的な文章を読み、論理の構成や展開の把握にもとづいて論旨 を客観的に理解し、要約し、意見を表すことができる。また、論 理的な文章の代表的構成法を理解できる。				4		
			<b>全</b> 国語			代表的な文学作品を読み、人物・情景・心情の描写ならびに描写意図などを理解して味わうとともに、その効果について説明できる。				4		
	人文・神 科学	社会				文学作品について、鑑賞の方法を理解できる。また、代表的な文学作品について、日本文学史における位置を理解し、作品の意義について意見を述べることができる。						
	科学					現代日本語の運用、語句の意味、常用漢字、熟語の構成、ことわざ、慣用句、同音同訓異義語、単位呼称、対義語と類義語等の基礎的知識についての理解を深め、その特徴を把握できる。また、 それらの知識を適切に活用して表現できる。			。また、	7		
						代表的な古文・漢字物・情景などを理解から方ができます。	<u>ることができる。</u>				4	
						代表的な古文・漢字 ける位置を理解し、 る。また、それら	作品の意義につ	ハて意見	見を述べるこ	学史にお とができ 	4	

		葉の現代 文の基礎 4									
		社会で使用される言葉を始め広く日本語を習得し、その意味や用 法を理解できる。また、それらを適切に用い、社会的コミュニケ ーションとして実践できる。									
評価割合											
	試験	発表	相互評価	討論	ポートフォリオ	その他	合計				
総合評価割合	40	40	0	20	0	0	100				
基礎的能力	30	30	0	10	0	0	70				
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0				
分野横断的能力	10	10	0	10	0	0	30				